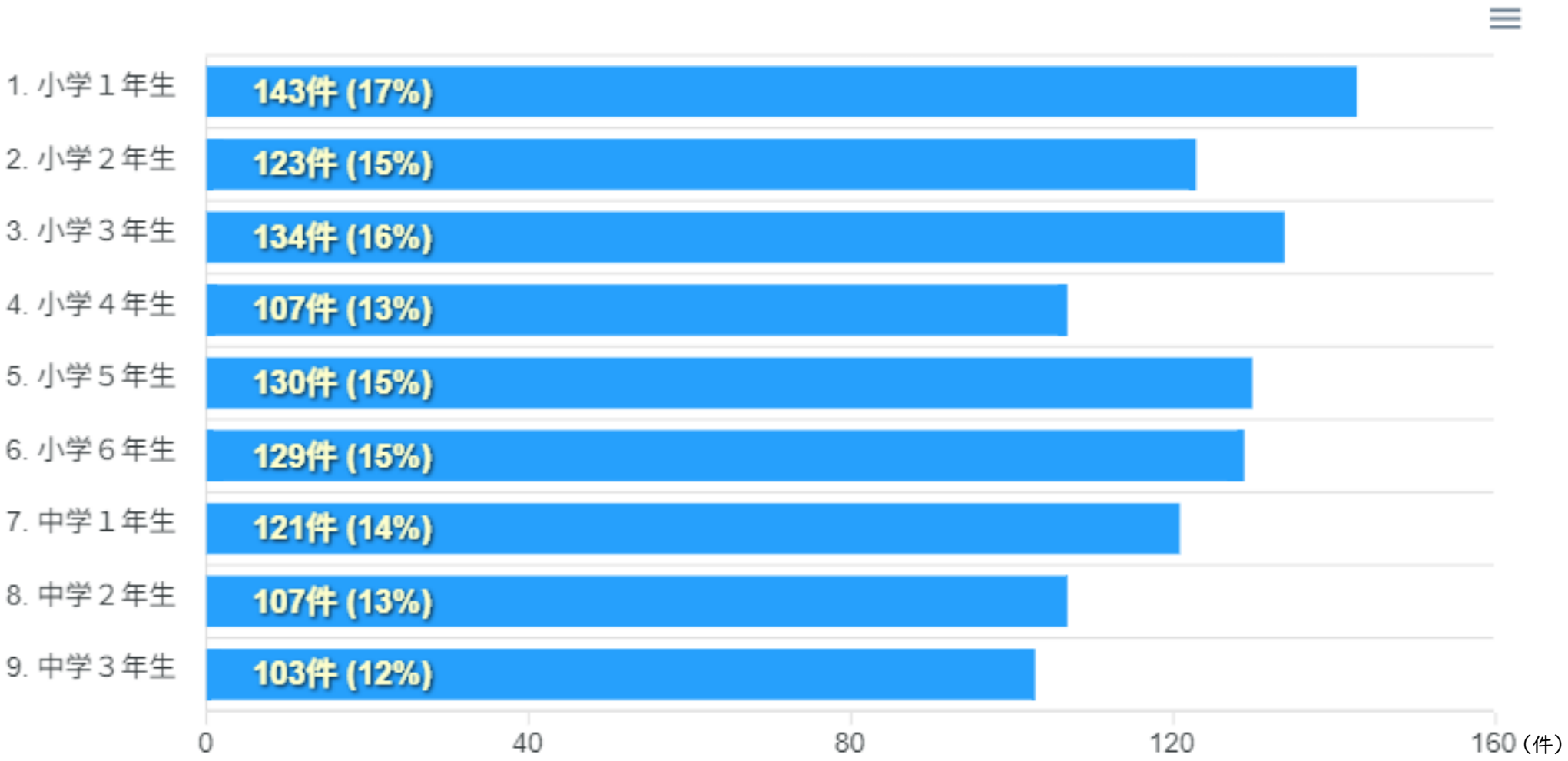
特別支援教育に対するアンケート

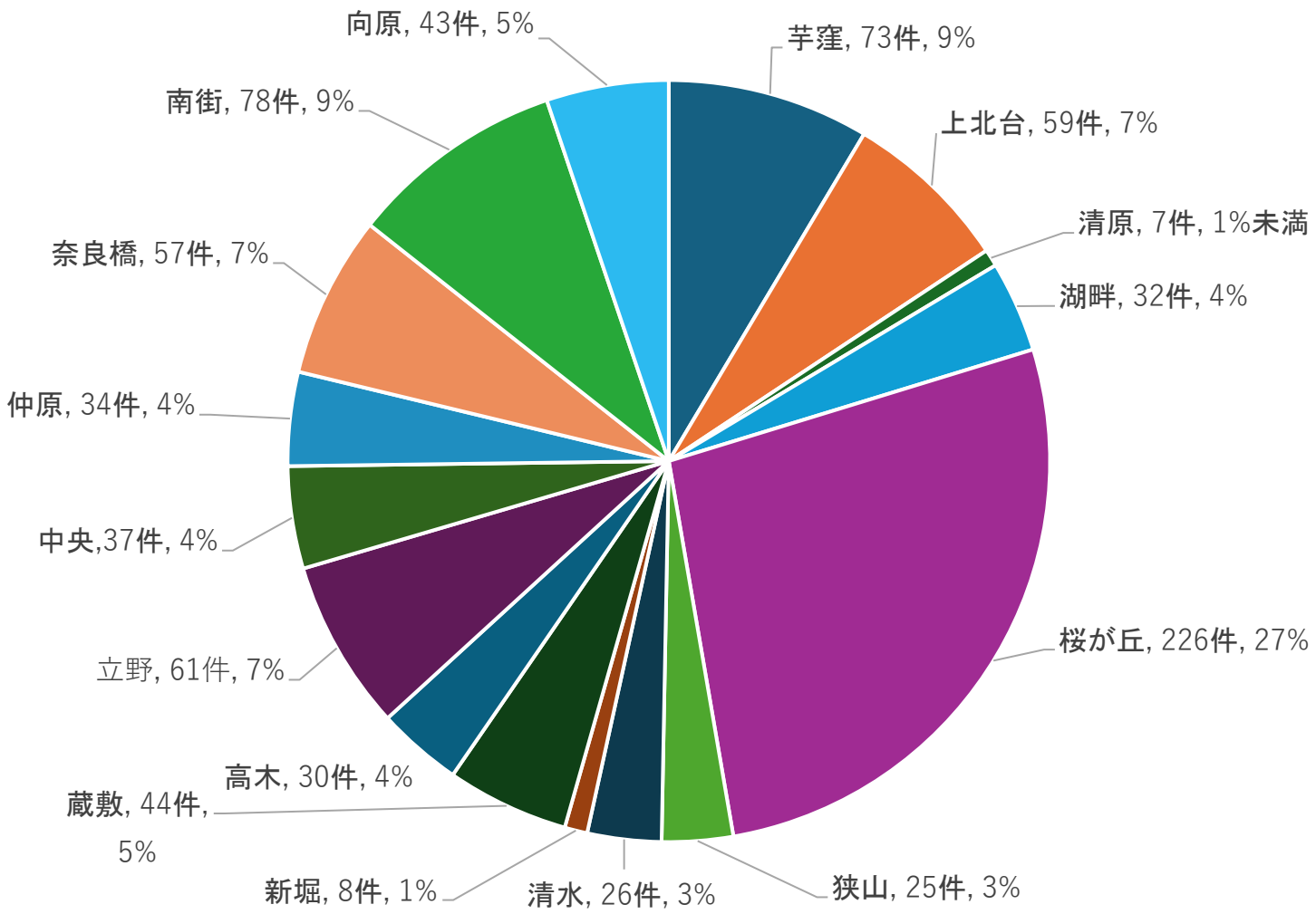
（通常の学級）

1. 在籍校別回答件数

回答率上位は、小学校１年生が143件（17%）、小学校３年生が134件（16%）、小学校5年生が130件（15%）となりました。



2. 地区別回答率

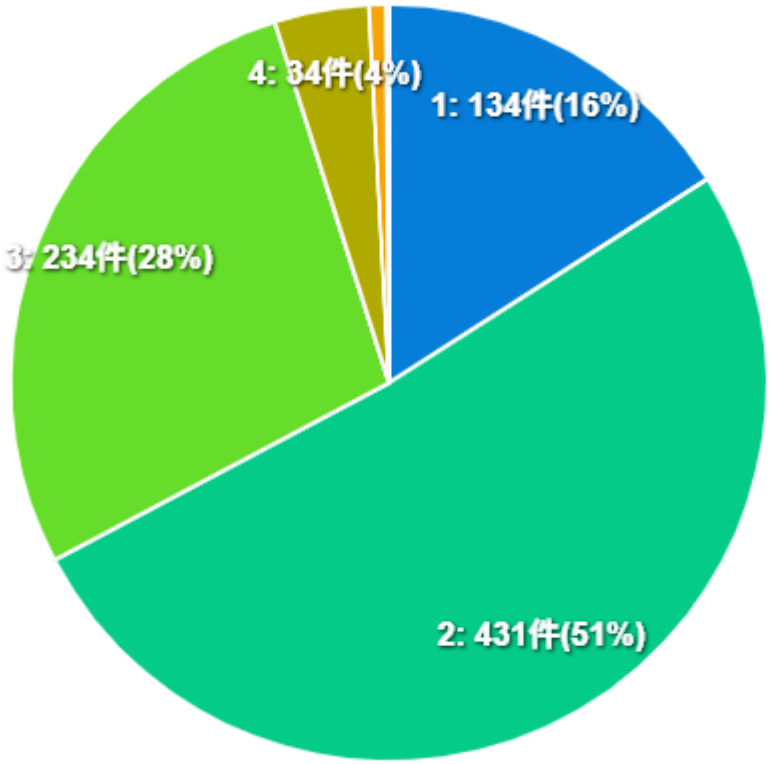


- 芋窪73件(9%)
- 上北台59件（7%）
- 清原7件（1%未満）
- 湖畔32件（4%）
- 桜が丘が226件（27%）
- 狭山25件（3%）
- 清水26件（3%）
- 新堀8件（1%未満）
- 蔵敷44件（5%）
- 高木30件（4%）
- 立野61件（7%）
- 中央37件（4%）
- 仲原34件(4%)
- 奈良橋57件(7%)
- 南街78件(9%)
- 向原43件（5%）

  合計840件でした。

3. 特別支援学級の認知度について

Q3.「特別支援学級」を知っていますか。（１つ選択）

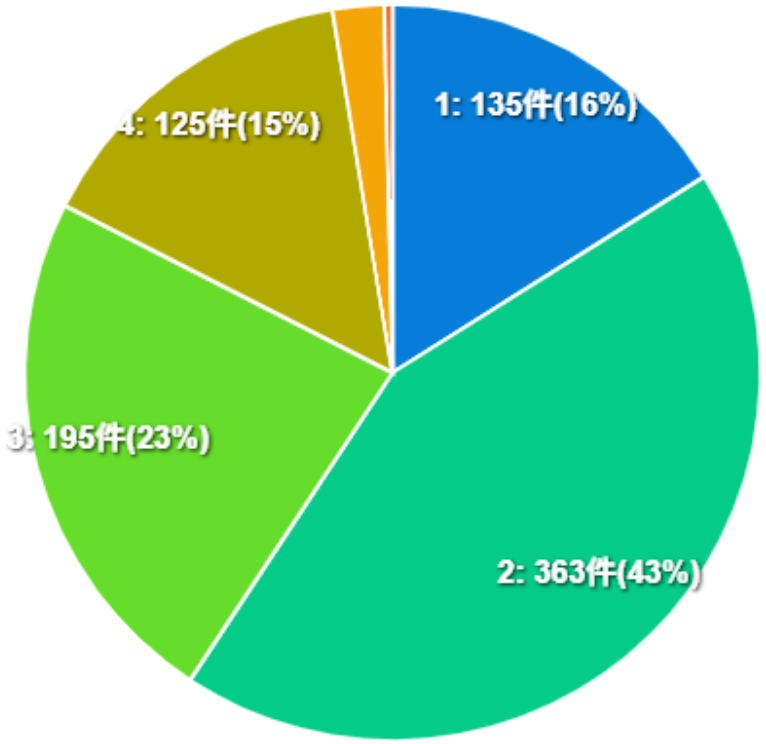


1.よく知っている134件（16％）
2.ある程度知っている431件（51％）
3.名前は聞いたことがある234件（28％）
4.あまり知らない34件（4％）
5.まったく知らない6件
6.未回答1件
合計：840件

1.よく知っていると2.ある程度知っているの回答件数を合わせると過半数を超えることから、回答者の範囲内においては、通常の学級の保護者にもある程度認知されていると考えられます。

4. 特別支援教室（通級）の認知度について

Q4.「特別支援教室（通級）」を知っていますか。（１つ選択）

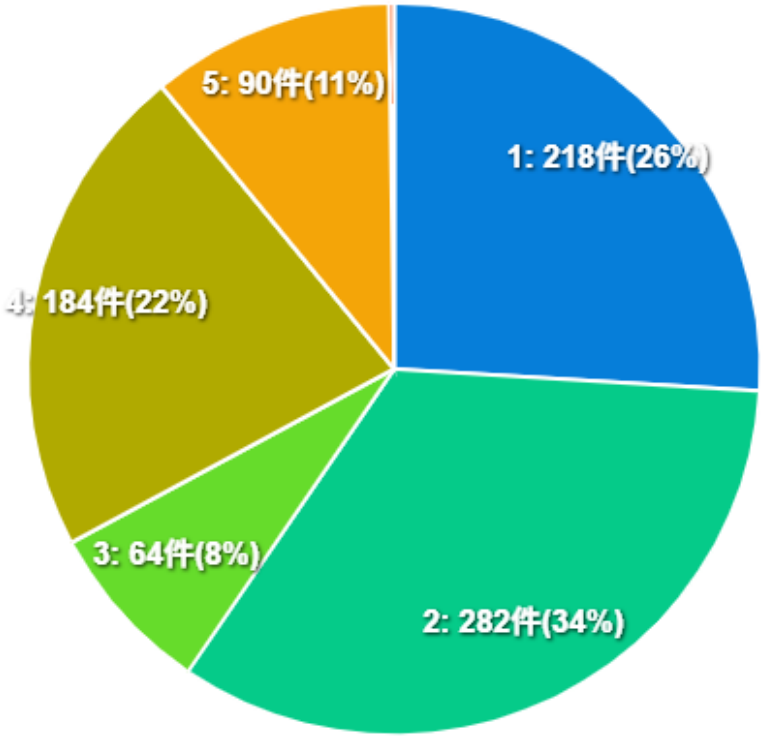


1.よく知っている135件（16％）
2.ある程度知っている363件（43％）
3.名前は聞いたことがある195件（23％）
4.あまり知らない125件（15％）
5.まったく知らない19件（2％）
6.未回答3件
合計：840件

1.よく知っていると2.ある程度知っているの回答件数を合わせると過半数を超えることから、回答者の範囲内においては、通常の学級の保護者にもある程度認知されていると考えられます。

5. 特別支援学級（教室）への入級方法について

Q5.特別支援学級（または通級）を利用するには、学校（専門機関等）と保護者が相談しながら保護者の意向を確認し、最終的に教育委員会が決定するものであることを知っていますか。
（１つ選択）

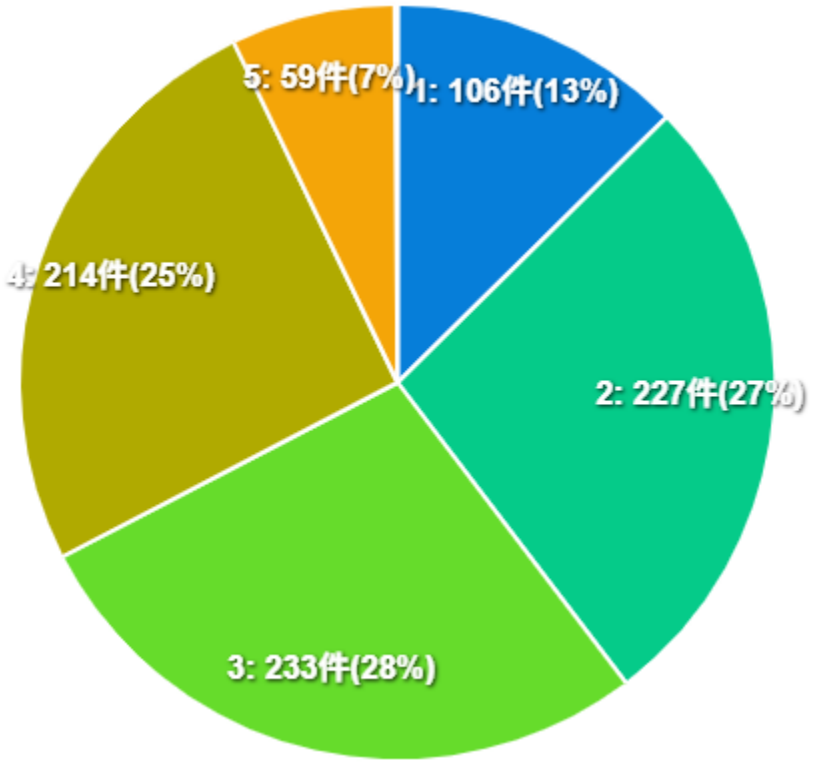


1.知っている218件（26％）
2.ある程度知っている282件（34％）
3. どちらとも言えない64件（8％）
4.あまり知らない184件（22％）
5.まったく知らない90件（11％）
6.未回答2件
合計：840件

1.知っていると2.ある程度知っているの回答件数を合わせると過半数を超えることから、回答者の範囲内においては、通常の学級の保護者にも入級方法については、ある程度認知されていると考えられます。

6. 通常の学級においての支援対応について

Q6.通常の学級でも、児童・生徒、個々の困りごとに応じた支援を行うことができると思いますか。
（１つ選択）

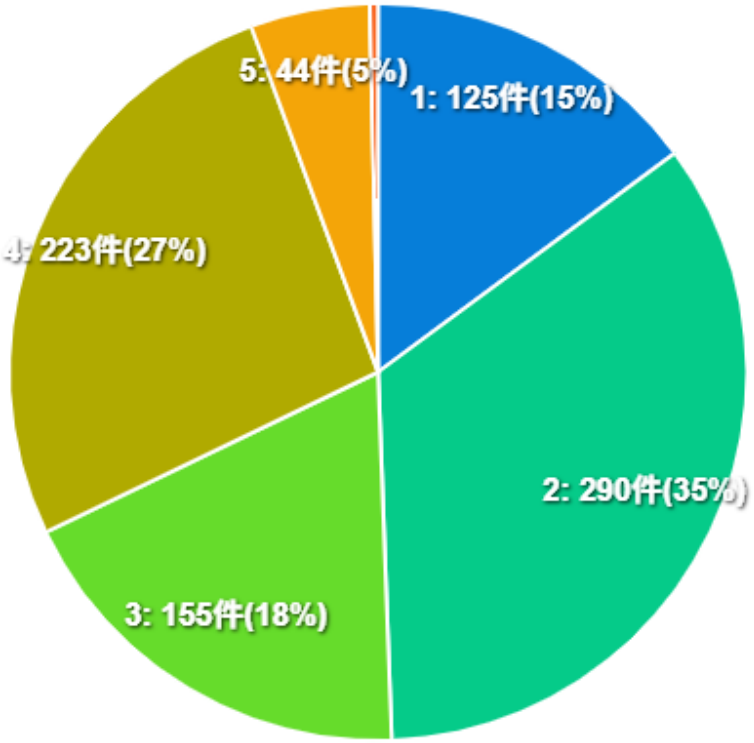


1.そう思う106件（13％）
2.ややそう思う227件（27％）
3.どちらとも言えない233件（28％）
4.あまりそう思わない214件（25％）
5.そう思わない59件（7％）
6.未回答1件
合計：840件

1.知っていると2.ある程度知っているの回答件数を合わせると40％であることから、回答者の範囲内においては、通常の学級の保護者にも入級方法については、ある程度認知されていると判断できます。

7. 通常の学級の担任対応について

Q7.通常の学級の担任にも、児童・生徒、個々の困りごとに対する支援の役割があることを知っていますか。（１つ選択）

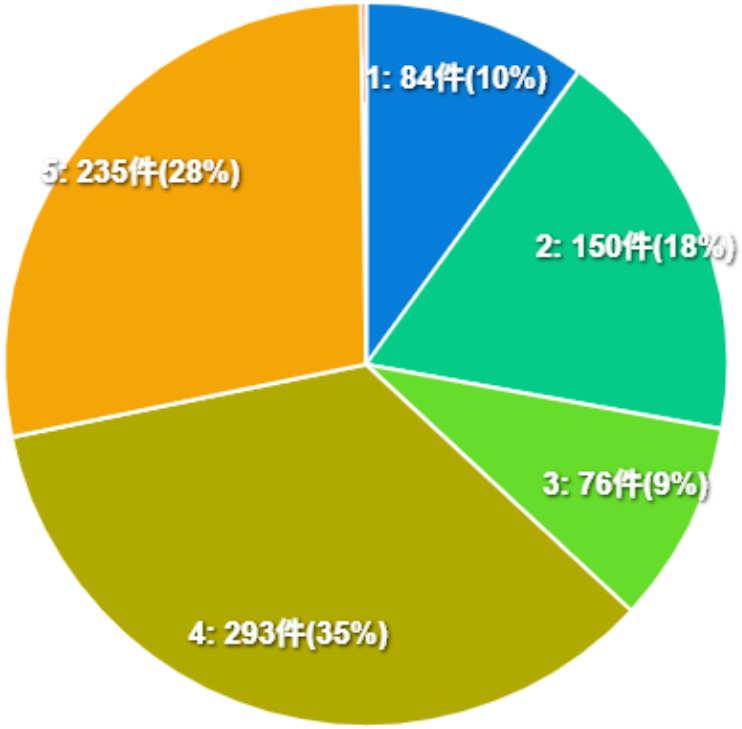


1.知っている125件（15％）
2.ある程度知っている290件（35％）
3.どちらとも言えない155件（18％）
4.あまり知らない223件（27％）
5.全く知らない44件（5％）
6.未回答3件
合計：840件

1.知っていると2.ある程度知っているの回答件数を合わせると50％になります。このことから、回答者の範囲内においては、通常の学級の担任にも個々の困りごとに対する支援役割については、ある程度認知されていると判断できます。

8. 副籍交流についての認知度について

Q8. 学校において行われている副籍交流の取組内容について知っていますか。
（１つ選択）

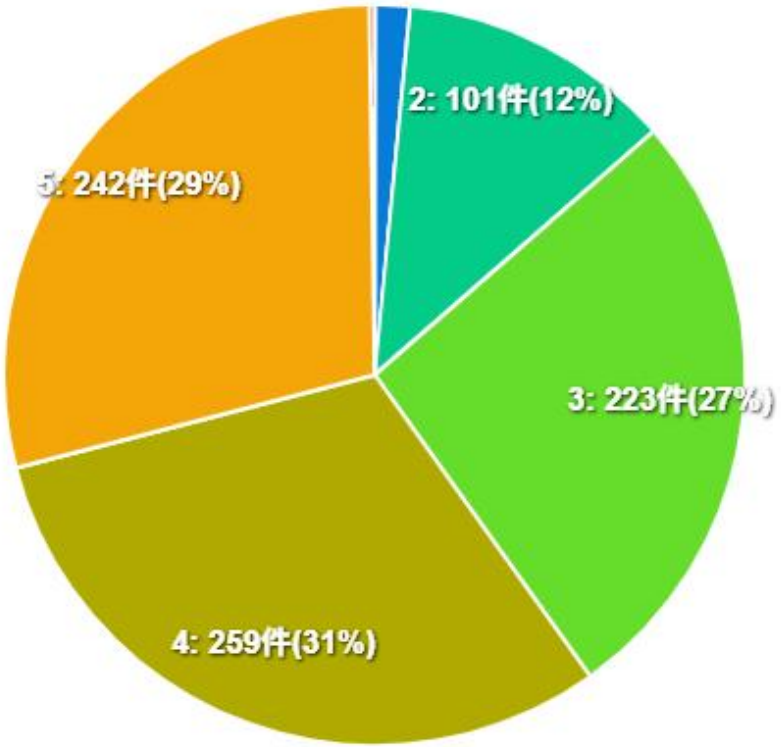


1.知っている84件（10％）
2.ある程度知っている150件（18％）
3.どちらとも言えない76件（9％）
4.あまり知らない293件（35％）
5.全く知らない235件（28％）
6.未回答2件
合計：840件

4.あまり知らないと5.全く知らないの回答件数を合わせると63％で過半数になりました。このことから、回答者の範囲内においては、「副籍交流＝特別支援学校の児童生徒が地域校で学ぶ制度」という基本が浸透していない可能性があると考えられます。

9. 副籍交流の取り組みの広報について

Q9.副籍交流の取組について、学校からの情報発信がされていると思いますか。
（１つ選択）

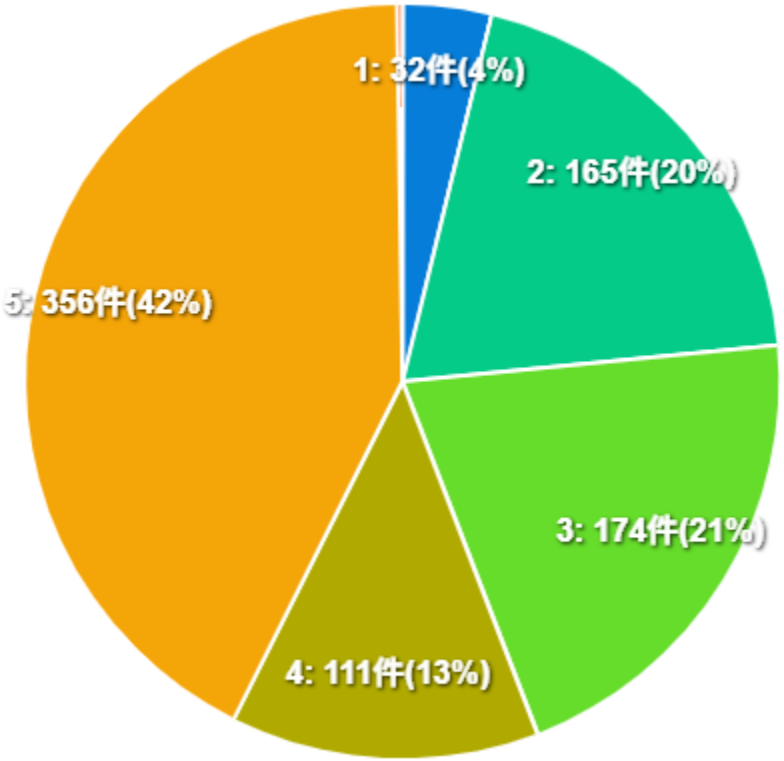


1.そう思う13件（1%）
2.どちらかといえばそう思う101件（12%）
3.どちらといえばそう思わない223件（27%）
4. そう思わない259件（31%）
5. わからない242件（29%）
6.未回答2件
合計：840件

3. どちらかといえばそう思わない27%、4.そう思わない31%の回答件数を合わせると58%で過半数であることから、副籍交流にかかる取組の情報発信については不十分であることが判断できます。
　また、5.わからないと回答した人が29%でありました。

10. 副籍交流による地域交流の効果について

Q10.学校は、副籍交流を通して、“在籍校の児童・生徒”と“特別支援学校等の児童・生徒”が学習する機会をもつなど、地域とのつながりを深める教育を進めていると思いますか。（１つ選択）

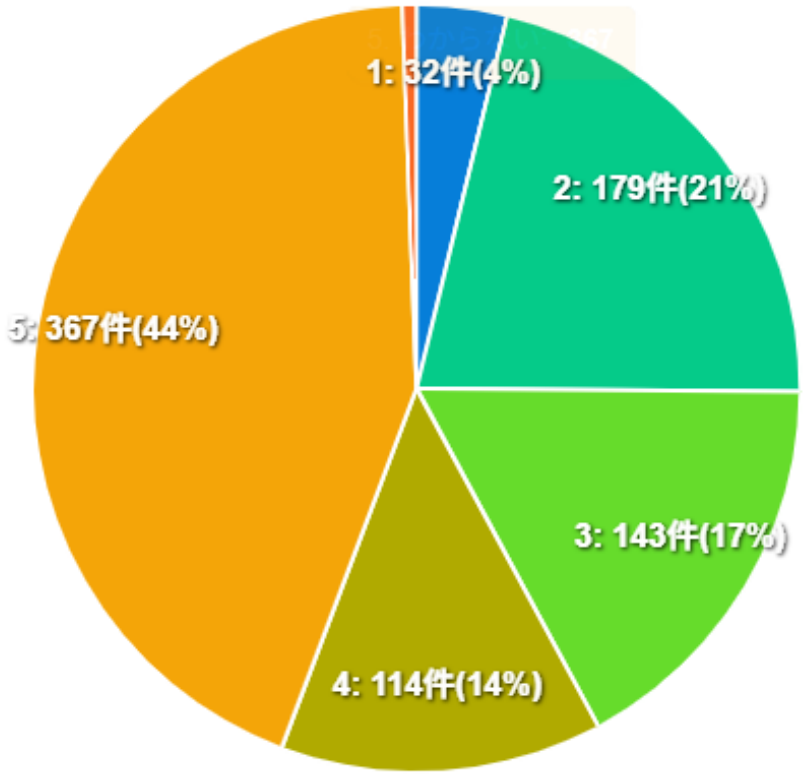


1.そう思う32件（4％）
2.どちらかといえばそう思う165件（20％）
3.どちらといえばそう思わない174件（21％）
4.そう思わない111件（13％）
5.わからない356件（42％）
6.未回答2件
合計：840件

5.わからないが42%で最も多い結果となりました。
否定的意見の3.どちらかといえばそう思わない21%、4.そう思わない13%の回答件数を合わせると34%であるに対し、肯定的意見の1.そう思う4%と2.どちらかといえばそう思う20%の合計が24%となり、肯定的意見と否定的意見が拮抗しています。

11. 副籍交流による特別支援教育や障害の理解度推進について

Q11.学校において行われている副籍交流を通して、お子さんの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。（１つ選択）

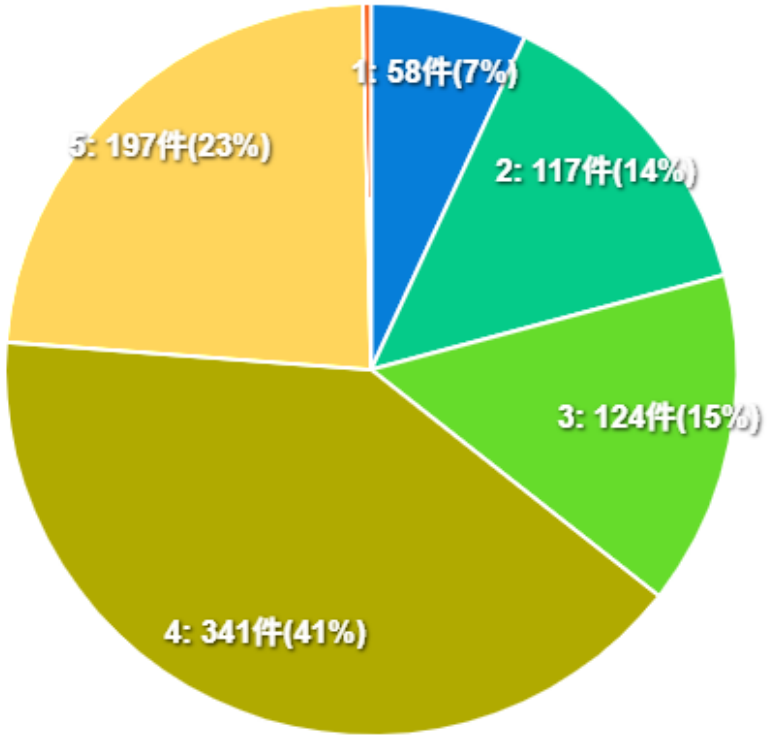


1.そう思う32件（4％）
2.どちらかといえばそう思う179件（21％）
3.どちらといえばそう思わない143件（17％）
4. そう思わない114件（14％）
5. わからない367件（44％）
6.未回答5件
合計：840件

肯定的評価は合計25％（4人に1人）、否定的評価は合計31％（約3人に1人）、わからない：367件（44％）で最大層。半数近くが「判断できない」となりました。

12. 通常の学級と特別支援学級との交流について

Q12.学校において行われている、通常の学級と特別支援学級の交流について知っていますか。
（１つ選択）

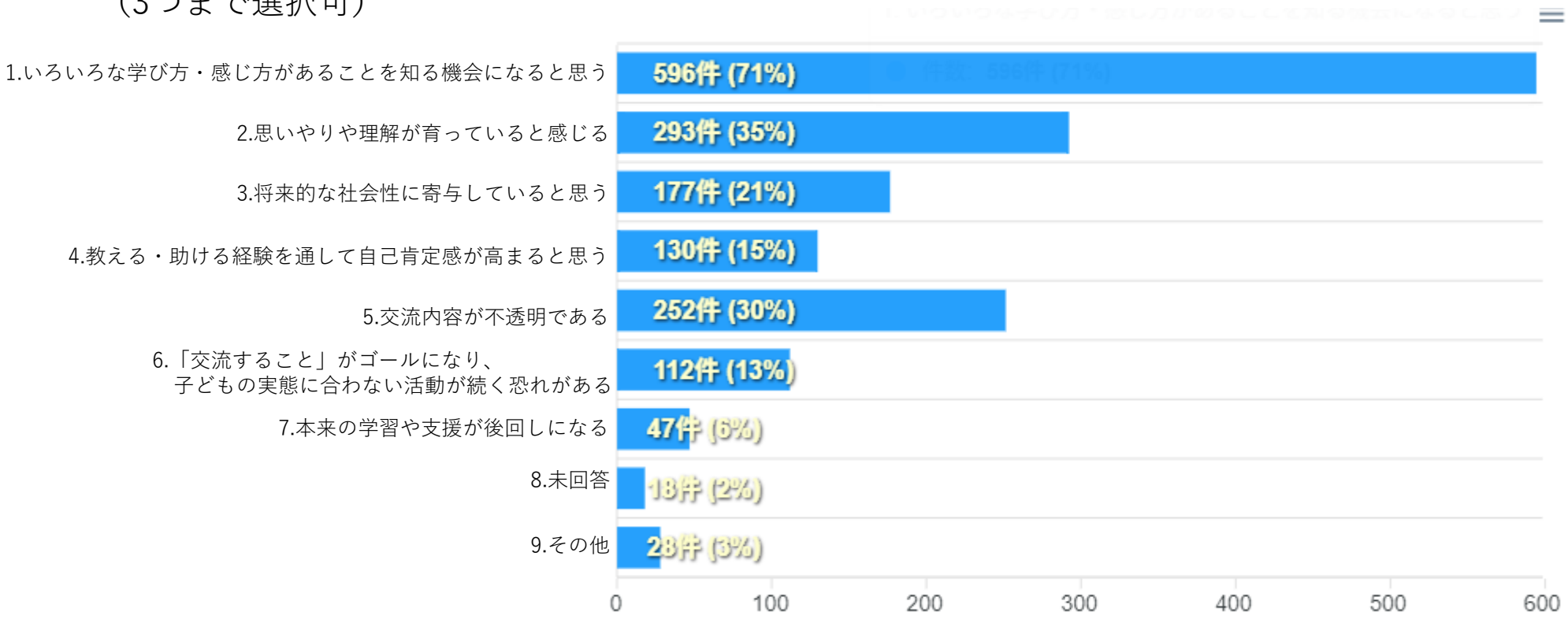


1.知っている58件（7%）
2.ある程度知っている117件（14%）
3.どちらともいえない124件（15%）
4.あまり知らない341件（41%）
5.全く知らない197件（23%）
6.未回答3件
合計：840件

校内交流を「知っている」保護者は21%、「知らない」保護者は64%となりました。ただし、特別支援学級が設置されていない学校の児童・生徒の保護者の回答も含んでいるので、この点を加味する必要があります。

13. 通常の学級と特別支援学級の交流について感じていること

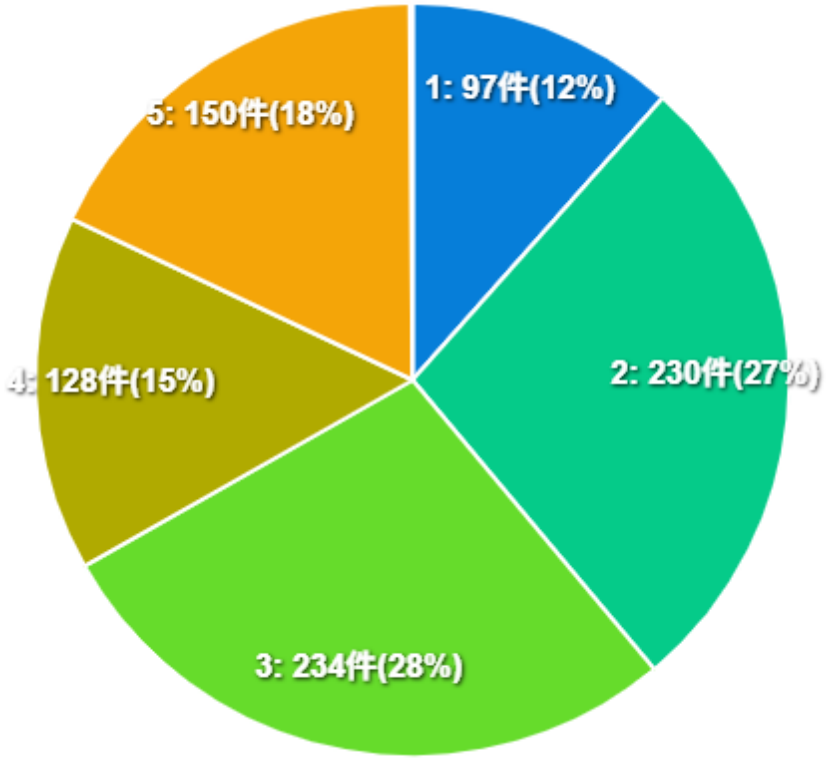
Q13.通常の学級と特別支援学級の交流について、保護者として感じる点があれば教えてください。（3つまで選択可）



1.いろいろな学び方・感じ方があることを知る機会になると思うが596件（71%）で最も多く、次いで、2. 思いやりや理解が育っていると感じる293件（35%）でした。三番目に多かった意見は、5.交流内容が不透明である252件（30%）でした。
その他の意見は、「世の中に様々な人がいることを知り思いやりの心を培う機会になると思うので、目的を明確にして年1回など、学業に全く負担のない範囲での交流することはいいことだと思う。ただ、支援学級の子は将来特別扱いしてもらえるかもしれないが、通常学級の子は努力のうえに将来が成り立つので、学業や学校生活に支障がない範囲での交流にしてもらいたい。」「近年問題になっている親のエゴで普通学級に所属するといったことはやめてもらいたい。」や、「運用する主体の練度次第で良くも悪くも作用すると感じる。」という意見がありました。

14. ことばの教室の認知度について

Q14.「ことばの教室（通級指導学級）」という制度を知っていますか。（１つまで選択）

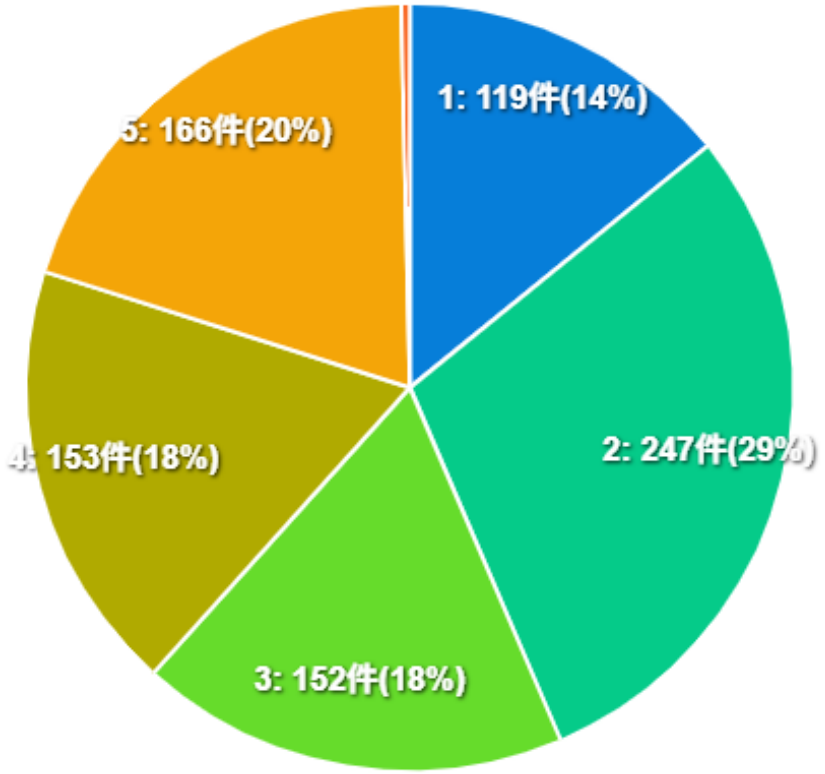


1.よく知っている97件（12％）
2.ある程度知っている230件（27％）
3.名前は聞いたことがある234件（28％）
4.あまり知らない128件（15％）
5.全く知らない150件（18％）
6.未回答1件
合計：840件

ことばの教室について「よく知っている」保護者は12％、「ある程度知っている」保護者は27％で合計39％（約4割）が「知っている側」。「名前は聞いたことがある」保護者は28％、「あまり知らない」保護者は15％、「全く知らない」保護者は18％で合計61％（約6割）が「知らない側」となりました。

15. ことばの教室の利用形態について

Q15.ことばの教室は、通所の学級に在籍しながら利用する支援であることを知っていますか。
（１つ選択）

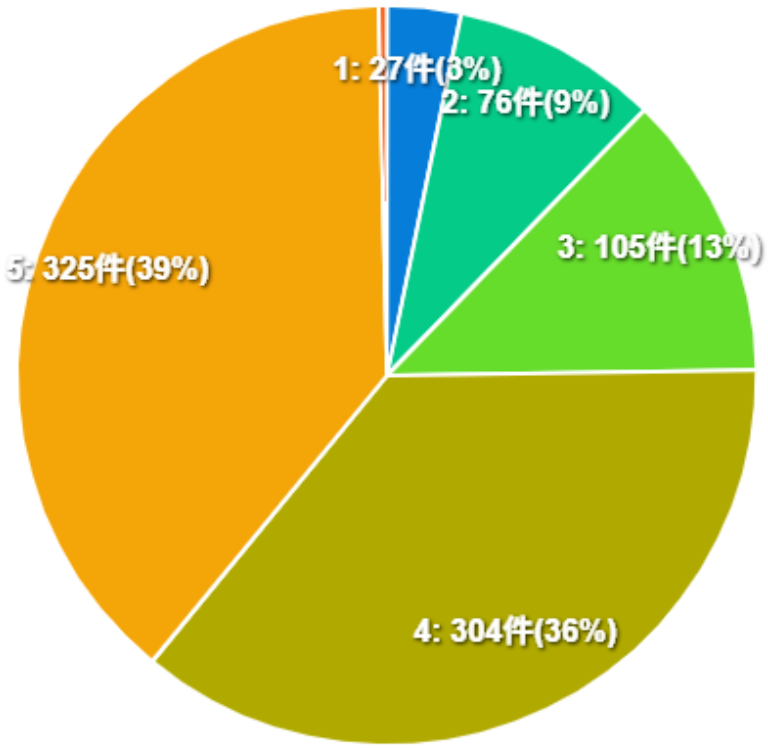


1.よく知っている119件（14％）
2.ある程度知っている247件（29％）
3.名前は聞いたことがある152件（18％）
4.あまり知らない153件（18％）
5.全く知らない166件（20％）
6.未回答3件
合計：840件

ことばの教室の利用形態ついて「よく知っている」保護者は14％、「ある程度しっている」保護者は29％で合計43％（約4割）が「知っている側」。「名前は聞いたことがある」保護者は18％、「あまり知らない」保護者は18％、「全く知らない」保護者は20％で合計56％が「知らない側」となりました。

16. きこえの教室（難聴通級）の認知度について

Q16.きこえの教室（難聴通級）がどのような学習を行う場所か知っていますか。（１つ選択）

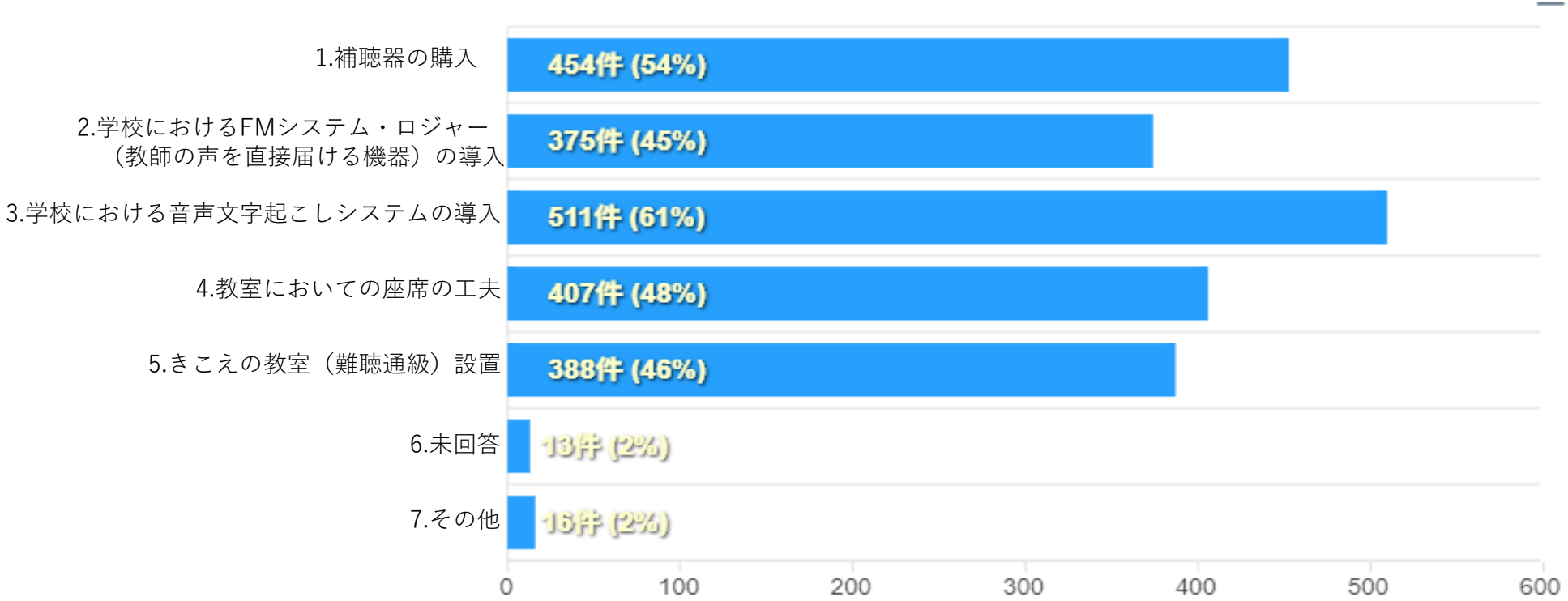


1.よく知っている27件（3%）
2.ある程度知っている76件（9%）
3.名前は聞いたことがある105件（13%）
4.あまり知らない304件（36%）
5.全く知らない325件（39%）
6.未回答3件
合計：840件

きこえの教室の認知度ついて“あまり知らない＋全く知らない”が75% と、特別支援教育の中でも最も認知度が低い領域であることが明確で「よく知っている」27件（3%）「ある程度知っている」76件（9%）で、合計12%で非常に低い認知となりました。

17. 難聴による障害がある子どもにとって、有効であると思う手段について

Q17.難聴による障害がある子どもにとって、有効であると思う手段を選択してください。
（複数選択可）



3.学校における音声文字起こしシステムの導入が511件（61%）で最も多く、次いで、 1.補聴器の購入が454件（54%）、三番目に多かった選択肢は、4.教室においての座席の工夫で407件（48%） でした。四番目に多かったのが、5.きこえの教室（難聴通級）の設置が388件（46%）でした。
2.学校におけるFMシステム・ロジャー（教師の声を直接届ける機器）の導入が375件（45%）で、6.未回答13件（2%）でした。その他の意見として、「障害の程度や環境によって最適解は異なるかもしれないし、手段の選択はその子自身や保護者、主治医などが決定するべきことであって、何の専門的知識も持ち合わせていない周囲の保護者の意見等は聞く必要が無いと感じる」という意見や、「本人が嫌でなければ、難聴による障害があることを開示し、他生徒にも補助を仰ぐ(負担にならない範囲で)」という意見もありました。